

釣れ釣れなるままに

2005年思い出の釣行記 PART. 2

釣りと下心

鹿島釣狂

☆釣行日	平成17年5月3日(火)
☆入釣場所	増毛港
☆潮	満潮 13:19 15cm
	干潮 19:13 11cm
☆天候	快晴 風強い 夕方やむ
☆エサ	イソメ2箱 サンマ2 甘エビ
☆釣果	ホッケ 280mm 3
	クロガシラ 250mm 1

連休中の行動

- 4月29日(金) あいの里の母のお迎え 岩見沢泊
30日(土) 帯広息子宅訪問 藤村父同伴 新嵐山荘宿泊
5月1日(日) 利明宅訪問 池田ワイン城見学 帰宅
2日(月) 勤務後、あいの里に向かう 泊
3日(火) 息子帯広へ(娘帯広大会宿泊対応のため) 増毛港
4日~5日 仕掛け作成

連休中に帰省していた息子を見送ってから、増毛港に魚釣りに行くことにした。そそくさと準備をしていると、昼近くになって女房が突然、甘えた声を出す。

「美味しいお寿司をご馳走してくれるなら一緒に付いて行ってもいいのよ。お母さんから

お小遣い頂いたでしょう。」

帯広の息子のところへおふくろを車に乗せて連れていったこともあり、おふくろからガソリン代として2万円を渡されていたのだ。何を思ったかそれを引き合いに出し、ドライブがてらに付いていこうと考えたらしい。あまりにも唐突で思いがけない言葉だったので躊躇したが^{かみ}予てから望んでいたことなのでOKサインを目の前に突き出してやる。

恋愛中の彼女にそうするように、なんだかうきうきとした気分になる。女房を退屈させないようにと様々な手立てを思い巡らせる。一人では携帯椅子なんかは持つことはないのだが、女房のために車に積み込む。いくつになっても女房には楽しい思いをさせたいのだ。

女房には何が何でも釣らせたいものだと思気込む。手頃なホッケのサビキ釣りを想定し、釣りエサ等を買そろえる。12:30 砂川を出発し、13:30には増毛港に着いた。遠藤水産の前では、新鮮な魚を求めて沢山の車が往来している。荷揚げ岸壁にも車が溢れており、僅かな駐車スペースを見つけて岸壁横に駐車する。岸壁はホッケのサビキ釣り師で溢れているが、駐車した車の前では釣りのできるスペースが有った。荷積み岸壁を探索すると、自動魚釣り機が竿を揺らしているくらいで、釣り人のほとんどが車の中におり、辺りは全く釣れていない様子である。右端の奥まったところで若干の釣果(25cm~30cmのホッケ)が有った。

遠藤水産でトイレタイムを済まし、セブンイレブンで昼食等の買い出しをする。女房はもちろんおやつを選定にも余念がない。観光客が國稀酒造周辺の歩道に溢れている。

外防波堤に向かうが、ここでも釣れている様子はない。スペースを見つけ、隣にあいさつしてから準備する。女房は、携帯椅子にどっかりと座り、早速おやつを口の中にほうり込んでいる。身支度も完璧で、山から吹いてくる強風にも動じる様子が無い。エサの甘エビも賞味してしまう。

アタリは全くない。女房はおやつが続く1時間ぐらいは我慢していたが、さすがに退屈してきたのか、クルマで休むことにして去っていた。

旭川の釣り会の御仁がネット仕掛けで順調にホッケを上げている。右隣の人とオマツリしたが、一言もあいさつが無い。クロガシラが釣れた。左隣の人とオマツリしており、丁寧に挨拶しておいた。

5時、釣り座を先端方向に移動してから、一旦、車をおいた駐車場に戻り、ホッケのサビキ釣りの様子を偵察するが、相変わらず釣れている様子が無い。丁度、女房が遠藤水産から戻ってきたところで、遠藤水産が5時までと言うことであり、セブンイレブンにトイレを借りに行くと言う。8時撤収を告げ、再度防波堤に向かう。ホッケが付いている。根掛かり対策を施した引き釣り用の仕掛けを試すが、2つとも根掛かりしてしまった。改良が必要である。右に少し移動して、ホッケ2匹があがる。少し早い7時に撤収する。

7時半に「寿司IZAKAYA忠」に駆け込み、2500円の特上寿司を2人前と、ウニ汁、カニの甲羅揚げを注文する。ウニ汁とカニの甲羅揚げはすぐ出て来たが、特上寿司の方がいくら待っても出てこない。痺れを切らしてウェイトレスに尋ねると、ウニ汁がサ

ービスとして再度出てきた。1時間ほど待つてようやくすまなそうに持ってきた。

9時、増毛ホテルで温泉に浸かってから、一路砂川に向かった。女房が帰りのクルマの中で「缶ビールを飲んでいいですか」とすまなそうに宣う。その時に初めて自分の心遣いのなさに気づいた。温泉からあがったときから呑みたかったのを我慢していたのだろう。これからも女房を釣りに誘いたいと思っているのだが、こんな状況では付き合いはくれないだろう。